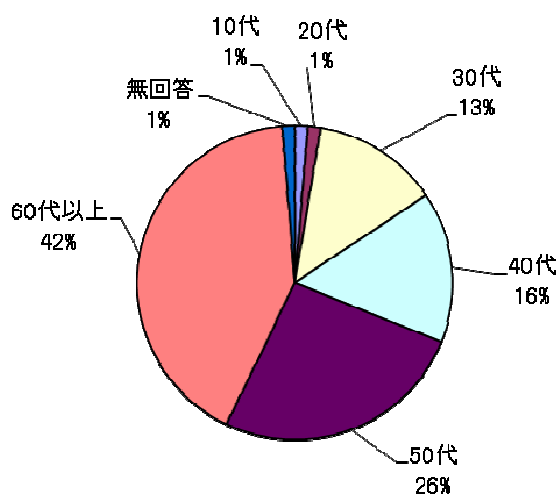


参加者数 181 名中回答者 77 名【回答率 43%】

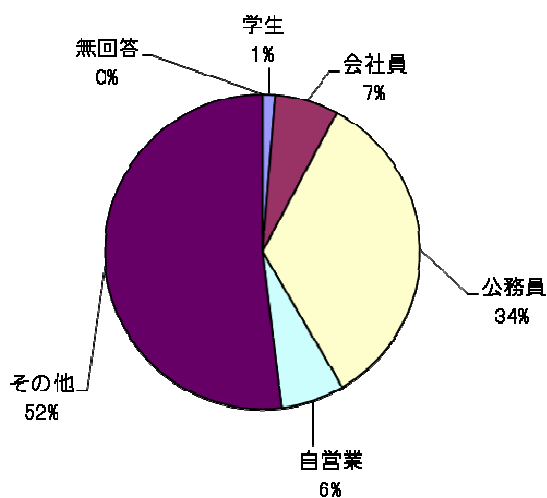
Q1. 年齢

1	10代	1人
2	20代	1人
3	30代	10人
4	40代	12人
5	50代	20人
6	60代以上	32人
7	無回答	1人



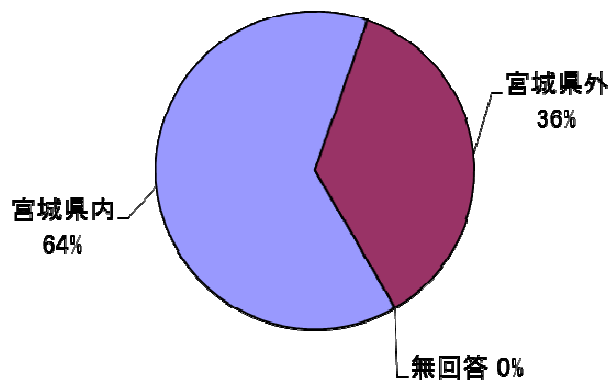
Q2. 職業

1	学生	1人
2	会社員	5人
3	公務員	26人
4	自営業	5人
5	その他	40人
6	無回答	0人



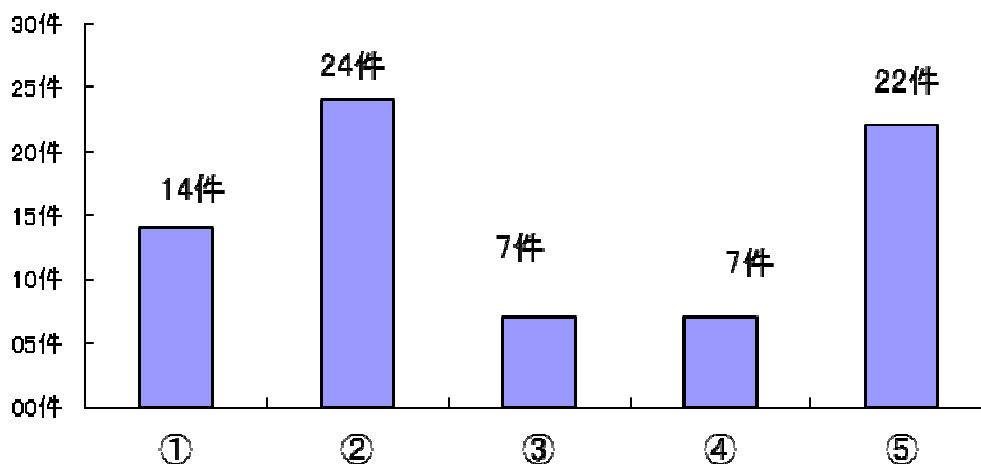
Q3. 住所

1	宮城県内	49人
2	宮城県外	28人
3	無回答	0人



Q4. 今回のシンポジウムを何で知ったか？（複数回答）

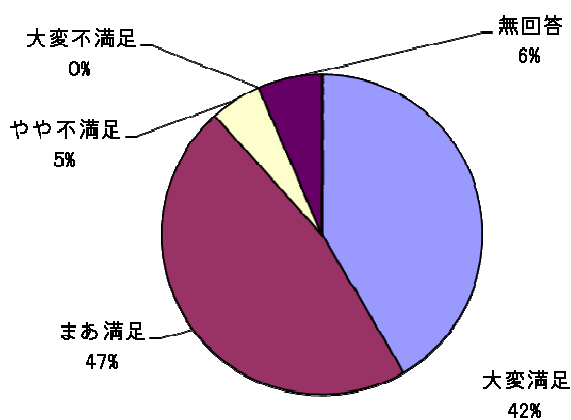
1	新聞	14人	朝日3件、河北新報7件、日本教育新聞1件、読売新聞2件、空白3件※複数回答1件
2	チラシ	24人	法務局、宮城県庁、区民文化センター、職場、青年文化センター、福祉プラザ等
3	インターネット	7人	仙台法務局HP、南三陸絆ル観洋HP、ユーチューブ、センターDM等
4	知人・家族	7人	
5	その他	22人	法務局、人権擁護委員協議会、アエル通路、職場で、所属団体より、ボランティア団体より、メール



Q5. 今回のシンポジウムについて

(1) シンポジウムは全体として満足いくものでしたか？

1	大変満足	32人
2	まあ満足	36人
3	やや不満足	4人
4	大変不満足	0人
5	無回答	5人



(2) 特に良かった演目がありましたら、お書きください。

中学生の紙芝居の絵、雪の降る当時の様子、津波が襲来する様子が、本当に体験したから描ける、忠実な描写で素晴らしいと思った。ホテル観洋の女将さんのお話。地元の危機に、ただただ何とかしなければ、という思いで、懸命に取り組まれてきたお話は、大変感動的だった。何かしたいという思いは、誰でも感じることだが、それを行動に移していったところは、本当に並大抵の方ではできないと思う。

黒田様の言葉ひとつひとつに、説得力と意志の強さ「命」の尊さを感じました。

森田先生の山田町ゾンダハウスの取り組みが実践ケースとして学ぶことができた。

基調報告のすべての方が良かった。もう少し持時間（一人30分くらい）が欲しかった。このような災害を忘れないためにも、多くの場所で開催して欲しい。

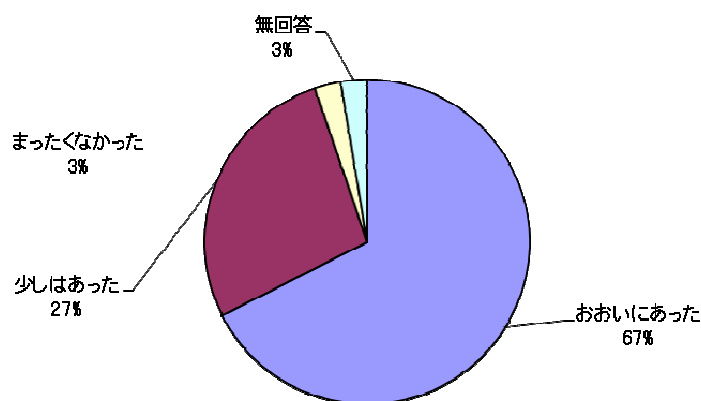
中学生が自ら紙芝居を作り、感謝や復興の思いを発表されたこと。災害に関する女性の人権や子どもの人権の問題についてのシンポジウムには参加した事があるが、総合的な人権として被災者は人権侵害を受けているとの観点でのシンポジウムは初めてでした。

紙芝居は、小中学生の素直な思いが詰まっていて、すばらしかったと思います。同じ世代の子どもたちに伝えていく機会があればよいと思います。パネリストの方のお話は、すべて伝わるメッセージがあり、聞くことができてよかったと思います。

※主な回答を抜粋

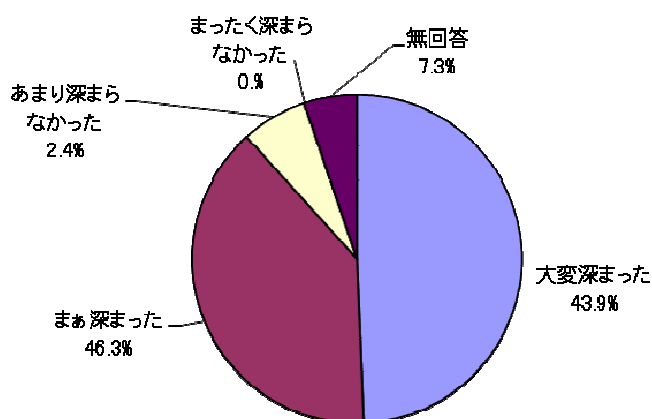
Q6. 今回のシンポジウム以前に、人権問題についてどのくらい関心や理解がありましたか？

1	おおいにあった	52人
2	少しはあった	21人
3	まったくなかった	2人
4	無回答	2人



Q7. シンポジウムに参加して、人権問題についての関心や理解は深まりましたか？

1	大変深まった	38人
2	まあ深まった	30人
3	あまり深まらなかった	5人
4	まったく深まらなかった	0人
5	無回答	4人

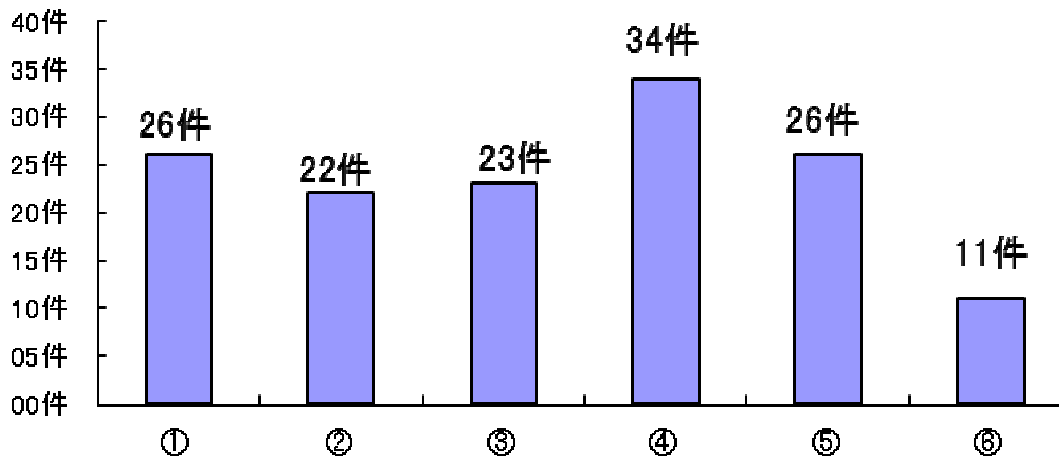


Q8. シンポジウムに参加して、何か行動しようと思いましたか？（複数回答）

1	被災地支援を行いたい	26人
2	人権問題に関心を持ち、偏見を持ったり、差別をしないようにしたい	22人
3	人権問題について、もっと知識を深めたり、勉強したりする機会をもちたい	23人
4	今回のイベントの内容を、友達や家族に説明し、話し合いたい	34人
5	ほかの人権問題に関するイベントにも、機会があれば参加したい	26人
6	その他	11人

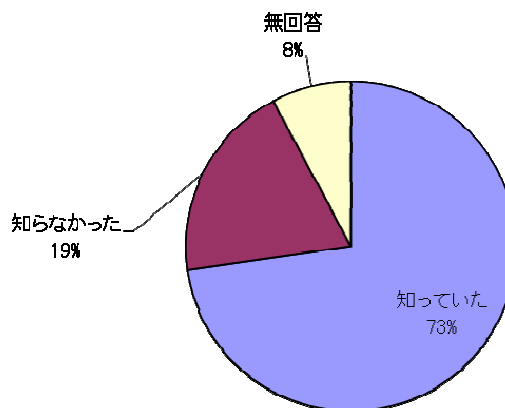
※「6 その他」記入一覧

- ・H23.8月～、毎月、南三陸・石巻へボランティア手伝いをしております。
- ・既に活動中
- ・難しいことは考えなくても、ただ純粋に誰かの困っている状況に出会ったら、自分ができることをしたいと思いました。
- ・同じ人権委員として宮城県の活動をもっと早く知らせて欲しかった。
- ・今日のような震災支援イベントができないか考えたい。
- ・震災による人権問題に関心を持ち勉強したい。
- ・仕事の中で支援をしていきたい。



Q9. 今回のシンポジウムなどのように、国や地方自治体が、広く人権啓発活事業を行っていることは知っていましたか？

1	知っていた	56人
2	知らなかった	15人
3	無回答	6人



Q 10. 今回のシンポジウムについてのご意見や今後開催してほしいテーマなど、自由にお書きください。

放射能汚染に伴う人への風評被害をテーマに全国で開催していただきたい。パネリストは年代も分けた方が良いと思います。若い年代の方ももっと選んだ方が良い。

今回のシンポジウムを Part I、として、Part II、Part IIIも開催して頂き、その時々には浮上してきた問題を取り上げるという形で、是非、継続して頂きたいと思います。参加できて、大変嬉しく思います。ありがとうございました。

テーマと開催地がマッチしたのではないかと思います。復興の進みに合わせて、引き続き震災と人権をテーマにして開催してはいかがかと思います。

いろいろな人権問題をわかりやすく解説するシンポジウムを開催して欲しいと思う。

エイズケースの予防や対人関係と人権について、特に子どもや家族の関係。

※主な回答を抜粋

広報内容

広報実績

No.	事 項	実施内容
1	新聞広告	<ul style="list-style-type: none"> ・全国紙（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞）に新聞広告（半5段）を掲載。掲載日は、3紙とも平成24年1月28日。 ※新聞広告の掲載内容等については、76ページ参照。
2	新聞折込	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年1月28日付河北新報に新聞折込を実施。宮城県仙台市エリアに計161,000部。
3	広報用チラシの配布	<ul style="list-style-type: none"> ・広報用チラシを関係機関等に配布、掲出を依頼。 仙台法務局（600部） 全国の法務局・地方法務局（980部） ※仙台法務局を除く49局。 宮城県（400部） 仙台市（400部） 宮城県内市町村（340部）※仙台市除く。 その他、開催地近隣自治体、経済団体などに配布。 ※チラシ印刷部数：8,000部
4	イベント情報サイトへの 広報記事掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上のイベント情報サイトに広報記事を投稿、掲載。全国イベントガイド、WAM NET（ワムネット）など計10サイトに掲載。
5	メールマガジンの配信	<ul style="list-style-type: none"> ・本シンポジウムの開催を案内するメールマガジンを計5回配信。
6	人権ライブラリーホーム ページへの広報記事掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・人権ライブラリーホームページのイベント情報コーナーに広報記事を掲載。
7	人権センターホームペー ジへの広報記事掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・人権センターホームページのイベント情報コーナーに広報記事を掲載。
8	各種ボランティア団体等 への案内メール配信	<ul style="list-style-type: none"> ・震災関係を中心とした各種ボランティア団体等に対して、案内メールを配信。配信先は約700件。

新聞広告

2/11 土・祝 人権シンポジウム in 仙台 入場無料

テーマ 震災と人権 ～一人一人の心の復興を目指して～

時間 / 13:20～16:30 (12:30より受付開始)
 会場 / TKPガーデンシティ仙台・ホールB (宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 AER21階)

募集人数 / 200名 (事前申込制・先着順)
 主催 / 法務省・財団法人人権教育啓発推進センター
 後援 / 宮城県・仙台市・読売新聞社ほか

東日本大震災からまもなく1年。ガレキの撤去などハード面での復興が進むなか、「心」の面からの復興も必要とされています。そこで、本シンポジウムではさまざまな形で復興支援を行っている方々を招き、「心」の復興について考えます。皆様のご来場をお待ちしております。

プログラム

第1部 被災地の女子中学生が作成した紙芝居～上演と活動報告～
 「被災地の子どもたちからのメッセージ」◎宮城県石巻市立門脇中学校バレー部女子生徒の皆さん、◎金谷莉奈 紙芝居原画

第2部 シンポジウム「震災と人権～一人一人の心の復興を目指して～」
 【パネリスト】◎阿部恵子 東北女子大学准教授
 ◎黒田裕子 NPO法人人権教育推進センター 理事兼啓発ネットワーク推進部長
 ◎鈴木千代子 宮城県人権教育推進委員会 委員長
 ◎山田明美 東京大学社会学部社会福祉学専攻教授、東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長
 【コーディネーター】◎田中正人 財団法人人権教育啓発推進センター 理事、宮城県警察本部社会福祉課長

【資料展示】◎全国の地方公共団体等が作成した人権啓発資料 ◎被災地の子どもたちが作った紙芝居とメッセージ

お申込・お問合せ先
 財団法人人権教育啓発推進センター「人権シンポジウム in 仙台」事務局 〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX芝大門ビル4F <http://www.jinken.or.jp>
TEL 03-5777-1918 受付時間 9:00～17:45 **E-mail event2011@jinken.or.jp**
FAX 03-5777-1803 (2012年2月9日(木)まで事前申込希望者が募集人数を超えた時点で、受付を終了させていただきます)

読売新聞 平成 24 年 1 月 28 日 朝刊掲載
 エリア：宮城
 部 数：約 65,000 部

朝日新聞 平成 24 年 1 月 28 日 朝刊掲載
 エリア：青森・秋田・山形・岩手・宮城・福島・新潟・長野
 部 数：約 430,000 部

人権シンポジウム in 仙台 入場無料

震災と人権

～一人一人の心の復興を目指して～

2/11 土・祝 13:20～16:30 (受付開始12:30)
 TKPガーデンシティ仙台・ホールB
 〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 AER21階
<http://gc-sendai.net/>
 定員 200名 事前申込制・先着順

東日本大震災からまもなく1年。ガレキの撤去などハード面での復興が進むなか、「心」の面からの復興も必要とされています。そこで、本シンポジウムではさまざまな形で復興支援を行っている方々を招き、「心」の復興について考えます。皆様のご来場をお待ちしております。

プログラム

被災地の女子中学生が作成した紙芝居～上演と活動報告～
「被災地の子どもたちからのメッセージ」
 会場 莉奈 紙芝居原画 宮城県石巻市立門脇中学校バレー部女子生徒の皆さん

シンポジウム
「震災と人権～一人一人の心の復興を目指して～」
 【パネリスト】◎阿部 恵子 東北女子大学准教授 黒田 裕子 NPO法人人権教育推進センター 理事兼啓発ネットワーク推進部長
 ◎鈴木 千代子 宮城県人権教育推進委員会 委員長 森田 明美 東京大学社会学部社会福祉学専攻教授、東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長
 ◎田中 正人 財団法人人権教育啓発推進センター 理事、宮城県警察本部社会福祉課長

【コーディネーター】◎田中正人 財団法人人権教育啓発推進センター 理事、宮城県警察本部社会福祉課長

資料展示 ◎全国の地方公共団体等が作成した人権啓発資料 ◎被災地の子どもたちが作った紙芝居とメッセージ

お申込・お問合せ先
 財団法人人権教育啓発推進センター「人権シンポジウム in 仙台」事務局 〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX芝大門ビル4F
TEL 03-5777-1918 **E-mail event2011@jinken.or.jp**
FAX 03-5777-1803 **URL http://www.jinken.or.jp**

震災と人権 入場無料

人権シンポジウム in 仙台

～一人一人の心の復興を目指して～

日時 2012年 2月11日(土・祝)
 (平成24年) 13:20～16:30 (12:30より受付開始)
 会場 TKPガーデンシティ仙台
 ホールB 仙台市青葉区中央1-3-1 AER21階

募集人員 200名(事前申込制・先着順)
 申込方法 郵便/FAX/Eメール
 主催 法務省・財団法人人権教育啓発推進センター
 後援 宮城県・仙台市ほか

被災地の女子中学生が作成した紙芝居
 ～上演と活動報告～「被災地の子どもたちからのメッセージ」
 ◎宮城県石巻市立門脇中学校バレー部女子生徒の皆さん
 ◎金谷莉奈 紙芝居原画

シンポジウム「震災と人権～一人一人の心の復興を目指して～」
 【パネリスト】◎阿部恵子 東北女子大学准教授
 ◎黒田裕子 NPO法人人権教育推進センター 理事兼啓発ネットワーク推進部長
 ◎鈴木千代子 宮城県人権教育推進委員会 委員長
 ◎森田明美 東京大学社会学部社会福祉学専攻教授、東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長
 ◎山田明美 東京大学社会学部社会福祉学専攻教授、東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長

【コーディネーター】◎田中正人 財団法人人権教育啓発推進センター 理事、宮城県警察本部社会福祉課長

資料展示 ◎全国の地方公共団体等が作成した人権啓発資料 ◎被災地の子どもたちが作った紙芝居とメッセージ

お申込・お問合せ先
 財団法人人権教育啓発推進センター「人権シンポジウム in 仙台」事務局 〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX芝大門ビル4F
TEL 03-5777-1918 **FAX 03-5777-1803** **E-mail event2011@jinken.or.jp**
 ホームページ <http://www.jinken.or.jp>

毎日新聞 平成 24 年 1 月 28 日 朝刊掲載
 エリア：宮城
 部 数：約 12,000 部

実施内容の周知

新聞広告・YouTube 法務省チャンネル

平成 24 年 2 月 29 日 (水) の読売新聞・朝刊では、人権相談窓口等の広報記事とともに、人権シンポジウム in 仙台の採録記事が掲載された。

人権シンポジウム in 仙台の様子は、YouTube 法務省チャンネルにおいて、動画を配信した。
<http://www.youtube.com/MOJchannel>



新聞広告の効果測定結果

平成 24 年 2 月 29 日、読売新聞東京本社版・朝刊に掲載した新聞広告については、広告の効果을把握するため、首都圏（東京・神奈川・埼玉・千葉）に住む 15 ～ 69 歳の男女個人を対象にパソコンを利用したインターネット調査を実施した。調査結果の概要は、以下のとおりである。

- 接触率（「確かに見た（読んだ）」＋「見た（読んだ）ような気がする」は、特集記事部分（上部）が 57.9%、広告部分（下部）は 52.3%
- 特集記事への関心度（「とても関心がある」＋「まあ関心がある」）は、63.2%
- 全体の 4 割強が、「これからも、このような特集記事を掲載してほしいと思った」
- 参加してみたい「人権に関するシンポジウム」は、「東日本大震災に起因する人権問題に取り組もう」（35.4%）、「子どもの人権を守ろう」（34.0%）、「インターネットを悪用した人権侵害をやめよう」（31.6%）、「高齢者を大切に作る心を育てよう」（30.1%）が高スコア
- 広告部分への関心度（「とても関心がある」＋「まあ関心がある」）は、66.0%
- 広告印象度（「とても印象に残る」＋「まあ印象に残る」）は、約半数のスコア。広告理解度（「とても理解できる」＋「まあ理解できる」）では、8 割に達した
- 広告を見て、7 割を超える人が電話相談窓口があることを、半数強がインターネット相談窓口があることを、3 割弱が YouTube 法務省チャンネルがあることを理解した
- 相談窓口の認知状況は、最も高かった「子どもの人権 110 番」で約 3 割。約 6 割が「この広告を見て初めて知った」
- 人権イメージキャラクターを認知していた人（「具体的なキャラクター名まで既に知っていた」＋「見たことはあったが、具体的なキャラクター名について初めて知った」）は 14.9%。8 割以上の人々が「この広告を見て初めて知った」